

# NEWS LETTER

株式会社人財アジア 定期ニュースレター

vol.17

岡村の最近の注目ニュース  ビジネス予備校近況レポート  B-EAT 会活動報告  What's up?

2021年09月

# 2021/09

いつ始めても  
遅すぎることはない。

## 社長の責務は、 もちろん何にも優先して 社員の命を守る事にある。

社長に必要な要件は何か？・・・人によって列挙する内容は少なからず異なる。  
ただ、最後に多くの経営者が共通して加えるものがあるとしたら、“時の運”ではないか。

## 経営の真の評価は、随分年月が経ってから成されるものだ。

人目が気になって、気を緩めれば落としどころを探ってしまった私が、社長業務に従事してから通算18年となる。

2000年米国NYにて、現地法人立ち上げの使命を負って初めて社長になった。清算会社の社員を若干名引き継いでのスタートであった。問題含みの社員が混じっており、いきなり訴訟リスクを負ってさんざん苦労した。現地の弁護士は、本国に累が及んではいけないから書面のやり取りはせず、現地で意思決定を完結せよという。本部の上席は、ミスコミュニケーションを避けるためにメール報告を求めてくる。色々迷いながらも、最後は自己判断で、非公式な口頭報告を押し通した。本人はグループのリスク削減のために頑張っているつもりでも、見る人によっては頑固者に映ったのではないか。情報開示を法的に制限されており言い訳できないのは歯がゆかった。社長とは因果な商売である。

翌年には、米国同時多発テロが発生し、続いて炭疽菌を同封した郵便物が各地に送りつけられるなど、世の中は不安の渦中にあった。社長の責務は、もちろん何にも優先して社員の命を守る事にある。但し、少しでも状況が落ち着いてきたら、ビジネスの成長も止めるわけにはいかない。社員には心身の安全も経済的支えも必要なのだ。表向きは明るく顔を上げて、この不安定な両立を必死に模索したものだ。あれからもう20年経つのか。

2008年リーマンショック直後に、欧州系資産運用機関の日本法人社長になった。お恥ずかしいことに、グループ会社がサブプライム危機で巨額損失を計上し、厳しい信用リスク状況にあることを薄々察知していた。部下からは、“本当に大丈夫なのか？何か隠しているのではないか？”と突き上げられることもあった。彼等もまた顧客に叱責、詰問されていたから、その心情は痛いほどよくわかる。でも言えないことは言えない、孤独な時間が長かった。

そして2013年、生来の性格からは程遠いが起業、人財アジアを設立した。自社を「誇り高き零細企業」と称する通り、無い無いづくしの中で人材育成に没頭する支えになっているのは、“次世代人財の成長に貢献する”という理念に尽きる。生徒の皆さんや講師陣、そして社員に恵まれて質的成長を続けているが、激動の時代には常に一寸先は闇と考えるのがポリシーだ。落とし穴がないか常に身構えているので、緊張感は絶えない。

社長に必要な要件は何か？ 理念、覚悟、戦略、徹底力、細心にして大胆な決断力、人を思う心と仲間、孤独に耐える強さ・・・人によって列挙する内容は少なからず異なる。ただ、最後に多くの経営者が共通して加えるものがあるとしたら、“時の運”ではないか。経営の真の評価は、随分年月が経ってから成されるものだとは私は考えている。だから皆、いまは理念を信じて突き進むのみ。

本日寄稿くださった横山さんからは、夢を語る大切さを学んだ。余裕なく眉間に皺を寄せてしまいがちな私には、本当に深い助言だった。怖くもあり、優しくもあり、そんな大先輩である。

注)この隔月ニュースの内容をさらに充実させ、発信していきたいです。メールアドレス等の変更は総務企画までお知らせくださいね！

(EAT代表 岡村 進)

# 「社会的使命の全う無くして成長無し」

企業経営にとって、近年、「パーパス（PURPOSE）」の重要性を耳にすることが多いが、私は永年、企業経営の要諦は「社会的使命の全う」これに尽きると考えている。

企業は、人間と同様に社会との関わり無しでは生きていけない。即ち、企業の存立は社会的使命を全うすることが大前提であり、従って、「社会的使命の全う無くして成長無し」なのである。

この社会的使命を全うするとはどういうことかと言うと、我国に古くからある「三方よし」という考え方にも通じるのであるが、社会に寄り添う、社会と共生するということである。

隆盛を誇ってきた伝統企業が、衰退の道を歩み破綻していく様を見ると、社会との共生を忘れ社会的使命を見失っていることが多いのは残念である。

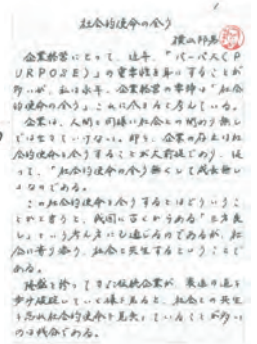
さて、社会的使命には、「普遍的使命」と「時代の要請に基づく使命」の二種類があると考えている。

普遍的使命とは、企業が設立時に掲げた嵩高な経営意思であり、存立意義として社会やお客様に如何なる貢献を約束するかという企業のDNAとなる。私が社長を務めた日本郵便で言えば、

最高の社会インフラである全国二万四千の郵便局を全国津々浦々に維持し、全国民に郵便・貯金・簡易保険を安定的かつ質の高い商品・サービスとして提供し、地域に貢献することである。

更に、企業として、社会やお客様の信頼を得て持続的に成長していくためには、「普遍的使命」に加え「時代の要請に基づく使命」を全うすることが必要不可欠となる。これは日本郵便で言えば、貯蓄から資産形成の流れをNISAを軸に定着させることや、生活にビルトインされたEコマースをラストマイルの面で安定的に支えること等である。

この際に大事なことは革新力である。社会や時代が潜在的に抱える問題に敏感に気づき、その解決に向けて果敢に挑戦し革新力を発揮していくことが重要で、既成概念や成功体験にすぎらない。



さて、社会的使命には、「普遍的使命」と「時代の要請に基づく使命」の二種類がある

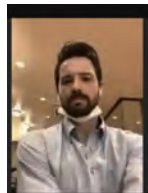
横山 邦男 氏より、直筆の原稿にてご寄稿頂きました。

ければ、例えば、少子高齢化や人口減少という構造的な問題ですら成長の糧となりうるのです。但し、気をつけなければならぬことは、情報の洪水である。情報を整理・分析して論理的思考を展開することは当然重要であるが、情報の洪水という昨今の環境においては、五感を研ぎ澄ませながら直感で判断することも必要である。客観的情勢の変化が早い今だからこそ、「現場・現物・現実」主義に基づく直感がスピード経営の決め手となりうるだろう。

企業は、普遍的使命の上に、時代の要請に基づく使命を積み重ねて全うすることにより、持続的成長が可能となりブランドが錆つくことは無くなるのである。変化を捉えて先手を打つ、合理的かつ大胆に先の先の手を読んでいく癖をつけなければならぬ。

## B-EAT ビジネス予備校のOB/OGによる地域を超えた繋がり

### 福岡クラスの授業に B-EAT の Elliot Conti さんが参加



8月に行われたEATビジネス予備校福岡クラスの授業に、東京クラス4期生のElliot Contiさんが参加されました。Elliotさんは現在、キザニア福岡の立ち上げプロジェクトリーダーとして福岡に赴任されています。急速でしたが、キザニアとコラボレーションするのであれば、どんな事業が自社で展開するのか等の意見交換が活発に行われました。

## What's up?



前橋 智明  
TOMOAKI MAEBASHI

EATビジネス予備校 東京クラス(1期生)  
ピクテ投信投資顧問株式会社  
資産管理アドバイザー兼 本部長 兼  
投信営業第二部長 兼 経営企画室長

皆さん、お元気ですか？私は外資系企業に転職して約3年がたちました。少人数で幅広い仕事を進めるので、とても忙しいのですが、楽しい日々を送っています。

ところで、コロナ禍で大きな変革が起きている中で、どう自分を高め、周りを高め、世の中を良くして行こうと考えたときに、改めて「GRIT」(やり抜く力)がより大切だと感じています。EAT 卒業生として、これからもお互いそれぞれの目標に向かって挑戦してまいります！